

B-2 算数ルーブリック

①算数ルーブリックの作成

ルーブリックとは、評価指標のこととされているが、ルーブリックについては、以下のような捉え方がある。

指導と評価を行う際には、通常、評価規準と評価基準が必要になる。評価規準は到達目標の具体であり、到達度の基準を表したものが評価基準である。

最近、ルーブリックという用語が評価について論じる際に用いられるようになってきた。ルーブリックとは、評価指標のことである。(中略)

評価規準と評価基準は、指導にあたる教師が評価の際に用いる用語とする。一方、ルーブリックは、学習する子ども側に示す用語とする。

具体的にいうと、教師は子ども達に到達してほしい目印(指標)をいくつか示してあげる。そして、子ども達は学習の途中や終盤などで、どの目印に到達したかを自己判断する。つまり、教師から示されたルーブリックをもとに自己評価する。

つまり子どもと教師が共通のものさしを持って学習の目標を持つことによって、子ども自身は授業での自分の目標を具体的に持つことができ、教師はそのための具体的な支援や手立てを考えることができると考える。そして、その自己評価ができる。特に、思考力や表現力は、その1時間で身に付くものではない。一人一人が学びを積み重ねながら、その子なりに「今度は〇〇をがんばってやってみよう」など、次にならざる具体的な目標も持って意欲的に学ぶ姿勢が大切であると考え。また、算数ルーブリックを使った自己評価から、教師が一人一人の伸びを認め励ましていくことで、子どもの学ぶ意欲の向上につながると考える。そこで、次の3つの算数ルーブリックを作成した。

ア. 自分なりに考える場⇒考える楽しさ

【自分なりの考えをもつこと】

	A	B	C	D
①	今まで習ったことや友だちの考えを使った。	今まで習ったことや友だちの考えを使えるか考えた。	自分なりにいろいろ考えた。	
②	式、文章、絵、図、表、数直線、グラフなどを、3つ以上使って書いた。	式、文章、絵、図、表、数直線、グラフなどを使って書いた。	自分の考えを書こうとした。	

イ. 考えを伝え合う場⇒学び合う楽しさ

【考えたことや思ったことを話したり聞いたりすること】

	A	B	C	D
①	自分の考えを図や表などを使って発表できた。	自分の考えを発表することができた。	自分の考えを発表しようと手をあげた。	
②	自分の考えと比べながら聞き、どこまで同じかがわかった。	自分の考えと比べながら聞くことができた。	友だちの発表を最後まで聞くことができた。	

ウ. すすんで問題を解く場⇒**学ぶ意欲の向上**

【すすんで問題に挑戦すること】

	A	B	C	D
①	できるだけたくさん問題をやろうと根気よくがんばった。	一つ一つじっくり考えながらがんばった。	なんとなく問題をやった。	

授業のふり返しには、この算数ルーブリックとふり返し（記述式）を用いることとし、できるだけ教師のコメントを朱書きして、一人一人の学びをフィードバックしてきた。

「単位量あたりの大きさ」の学習から、上記イの表を次のように少し修正して使った。

修正イ. 考えたことや思ったことを話したり聞いたりすること（下線部が修正箇所）

	A	B	C	D
①	自分の考えを図や表などを使い、 <u>できるだけ算数の言葉を使いながら</u> 発表できた。	自分の考えを、 <u>少しでも算数の言葉を使いながら</u> 発表することができた。	自分の考えを發表しようと手をあげた。	

②算数ルーブリックを活用した子どもの様子

授業の前にその日の算数ルーブリックを配っておくので、その日のめあてが子どもにわかりやすかったようである。例えば、単位量あたりの学習で修正イの表を使った時には、子どもたちは発表しながら、「わる数」や「1㎡あたりの…」などの言葉を使って、算数的な表現を心がけるようにしていた。また、まとめの練習問題をする時はウの表を使った。下記の算数日記⑥のような子どものふり返しが見られたことから、与えられた課題をやるだけでなく、自分なりの頑張りや気づきをふり返ることにつながったと考える。

例 「分数のたし算とひき算を考えよう」（13/13時）
（子どものふり返しより）

- ・今日はたくさんスキルをしました。習ったことをちゃんとすると意外にスラスラできました。
- ・やればやるほど、進めば進むほど、まちがえが少なくなって最後にはまちがえをせず、スッキリ終わったのでよかったです。
- ・1ページ1ページしかすすんでないけど、じっくり考えてやったので早くやった時よりも正確だったと思います。もっとはやく問題がとけるようになりたいです。

